

令和6年度 児童相談所関連研修

児童心理司(応用) I

日 程

10月8日(火)、31日(木)

対 象

- ・子ども家庭福祉・母子保健等に携わる職員
 - ・虐待対応に係る実務経験があり、基本的な用語、理論等をおおむね理解できている職員 【定員80名】
- ※本研修は、昨年度まで「児童心理司(3~4年目)I」として実施していましたが、経験年数によらず中堅職員を中心に受講していただくために名称変更しました。

ねらい

児童心理司として、複雑・困難な事例においても他職種・他機関と連携し、適切なアセスメント、治療的ケア、助言対応等ができる実践的能力の向上を図る。

場 所

特別区職員研修所(東京区政会館別館)
(千代田区九段北1-1-4)

留意事項

10月8日(火)の教科目は、WISCの基礎知識を有することを前提とした講義となる予定です。『WISC-V知能検査 テクニカルレポート』(日本文化科学社)なども参照した上で受講することをおすすめします。

※研修カリキュラムは、次ページに掲載しています。

【問合せ先】特別区職員研修所 教務第2課 児童相談研修係
TEL: 03-6261-1577

カリキュラム

開催日	教科目・講師名（敬称略）	内容
10/8 （火）	<p>9：00～17：00</p> <p>WISC-V知能検査を活用した 子どものアセスメント</p> <p>【講師】国立大学法人東京学芸大学 名誉教授 学校法人旭出学園 理事長 上野 一彦</p> <p style="text-align: right;">講師紹介・著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 早くから LD 教育の必要性を提唱し、その支援教育を実践するとともに啓発活動を行い、全国 LD 親の会、日本 LD 学会設立に携わる。 ◇ 特別支援教育士 SV、日本版 WISC-V 刊行委員会代表 ◇ 『エッセンシャルズ 心理アセスメントレポートの書き方 第 2 版』 染木史緒共監訳 日本文化科学社 ◇ 『日本版 WISC-IV による発達障害のアセスメント 代表的な指標パターンの解釈と事例紹介』 松田修、小林玄、木下智子共著 日本文化科学社 	<p>5つの主要指数と5つの補助指数の説明を中心に、子どもの支援に活用できる解釈について学びます。</p> <p>さらに、現在標準化中の『関連指標』の説明や事例を交えながら、より適切なアセスメントについて学び、実践力の向上を図ります。</p> <p>※実技講習会ではありませんのでご注意ください。</p>
10/31 （木）	<p>9：00～17：00</p> <p>虐待の背景にある強迫症の理解と対応 ～eRP（リトル・イーアールピー）と マインドフルネス入門～</p> <p>【講師】BTC センター 代表取締役 道玄坂ふじたクリニック 岡嶋 美代</p> <p style="text-align: right;">講師コメント</p> <p>強迫症は遺伝と環境要因で引き起こされる症状ですが、虐待や DV も強迫性の高い保護者の「やめたいけどやめられない癖の一種」とも考えられます。回避や依存は、自分と誰か、あるいは物事との距離のバランスの問題です。虐待や DV をする保護者の行動を「何を不安と考えてその行動をしてしまうのか」、「何を回避したくてその癖を発動してしまうのか」という視点で理解して眺めてみると、保護者へ伝える言葉が変わってきます。</p> <p>「本当はやめたい」という動機を引き出すことができれば、またその際に少しだけ癖の減らし方や反芻思考の止め方をお伝えできると、援助者としての信頼に繋がります。親子でこだわり合戦が繰り広げられる家庭もあるでしょう。保護者の行動変化に繋がる小さな課題を出してあげることで、自身の感情や行動の理解が進むと、子どもへの冷静な対応ができるかもしれません。</p> <p>今回は、大人にも子どもにも安全で簡単に教えられる eRP による強迫症の治療方法やマインドフルネスの技法を学ぶ演習をたくさん盛り込んだ研修にする予定です。マインドフルネスは私たち自身も困難なケースから頭を切り替える時などに有効な技法です。セルフケアのためにも是非お持ち帰りください。</p>	<p>保護者にも子どもにも（支援者にも）有効な曝露反応妨害法とマインドフルネス法について、明日からでも現場で使える知識と技法を学びます。</p>
計	14時間（2日間）	